



日本統計学会 会報 2018.1.30

No.
174

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——西郷 浩 (理事長) / 村上 秀俊 (庶務理事)
伊藤 伸介 (広報理事) / 古隅 弘樹 (広報委員)
水野谷 武志 (広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|--|--|
| 1. 巻頭随筆：Statistics, スタチスチック, 統計学,
データサイエンス…………… 川崎 茂… 1 | 7. 科学技術教育フォーラムのお知らせ
…………… 竹内光悦… 8 |
| 2. 2018年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報)
…………… 笛田薫・鎌倉稔成・汪 金芳… 3 | 8. 統計教育の方法論ワークショップのお知らせ
…………… 竹内光悦… 8 |
| 3. 第12回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)
…………… 西郷 浩・山本 渉ほか… 3 | 9. 理事会・委員会報告(2017年12月9日開催)… 9 |
| 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集
…………… 西郷 浩… 4 | 10. 新刊紹介…………… 11 |
| 5. 第67回全国統計大会の報告…………… 赤平昌文… 7 | 11. 受賞紹介…………… 11 |
| 6. 内閣府経済社会総合研究所「経済分析」への
投稿論文の募集…………… 西郷 浩… 8 | 12. 学会事務局から…………… 11 |
| | 13. 投稿のお願い…………… 12 |

1. Statistics, スタチスチック, 統計学, データサイエンス

川崎 茂 (日本大学)

先日、一般財団法人統計研究会の創立70周年記念会合に出席した際、日本における統計発達史の中で、「統計学(又は統計)」という語が定着するに至った経緯が話題となった。今日、「統計」は、Statistics(英)、Statistik(独)などに対応する日本語として普通に使用されているが、それが定着するまでには先人たちの大論争があった。このことは以前聞いたことがあったが、改めて考えると、統計学の性格付けに関する興味深い議論だと感じた。ご存じの方も多いただろうが、その概略は次のとおりである。

明治初期、Statistikに当たる日本語として、語源のState(国)にちなんだ「国勢学」、「国状学」、また、統計表から想起される「政表」、「表記」など様々な訳語が用いられた。しかし、当時の近代

的な統計の先駆者として知られる杉亨二は、Statistikを、人間社会の諸現象を数量的に分析し、因果関係などを明らかにするものと捉えており、どの訳語にも満足せず、原語のままの「スタチスチック」が最良であると提唱としていた。

明治中期にかけては、段々と「統計」が主流となっていった。明治22年に『医学統計論』が刊行され、その序文を森林太郎(森鷗外)が書いた。森は、その中で「統計」の語を使用しており、これに対して、杉の教え子である今井武夫は、「スタチスチックは人間社会を観察する科学」である、「医学雑誌にスタチスチックの説を見るとは不思議」である、などと批判を展開した。その結果、その年には双方合わせて約10回の激しい議論が誌上で交わされた。最終的に両者が折り合うことは

なかったが、一連の議論の終息ののち、「統計」が有力な訳語として残るようになった。（詳細については、宮川公男著『統計学の日本史』を参照。）

名称にこれほどのこだわりを持って論じた文章を読むと、少々辟易する面もある。しかし、筆者としては、「統計」は名訳だと考えているので、森の議論が最終的に優勢となってよかったと感じる。筆者は、これまで海外の統計関係者に「StatisticsはStateを語源としていることを知っているか」と尋ねたことが何度かある。限られた標本サイズではあるが、そのことを知らない人も案外多かった。また、知っている人からは、語源に基づくStatisticsでは意味が狭すぎると感じるとの感想もしばしば聞いた。他方、「統計」には、元来、漢語として「合計」、「総計」という意味しかなかったところ、明治期にその意味が拡大され、社会・経済分野に限定することなく、あらゆる分野に関するStatisticsの訳語として用いられるようになった。このような背景を考えると、「統計」は、Statisticsあるいは「スタチスチック」に比べて、実体をより適切に言い表した名訳と言えるだろう。

なお、新しい意味の「統計」の語は、1903年に横山雅男の『統計講義録』が中国語に翻訳されて以来、中国でも用いられるようになった。（このことは、中国国家统计局のホームページに2002年頃まで掲載されていたが、現在ではその記述は見当たらない。）このほか、漢字文化圏である韓国、ベトナムなどでも「統計」に由来する語が充てられている。明治期における名称の議論が終息し、その結果、「統計」が近隣諸国に伝わったということは、学術・文化の伝播の観点から興味深い。

このような学問の名称の問題は、明治の文明開化期の独特な問題のようにも思われるが、実は、現代の統計学とデータサイエンスの関係もこれに似ているように思われる。私を含め、本学会の会員の方々には、「統計学」という名称に親和性を感じられるだろうが、他方、これに堅苦しさや古めかしさを感じる人たちもいることは確かである。そのような人たちの多くは、「データサイエン

ス」といった名称に新鮮さを感じ、期待を持つ傾向があるように思われる。しかし、「統計学」と「データサイエンス」の違いは必ずしも明らかではなく、幅広いコンセンサスがあるようには見えない。

これは、日本だけの問題ではなく、英米など外国でも同様の議論があるようだ。例えばアメリカ統計学会のサイトには、「データサイエンスは統計学の進化か？滅亡か？」といった論考が掲載されているなど、いろいろな議論が見られる。また、2015年8月には「データサイエンスにおける統計学の役割」という同学会としての声明文が公表されている。それによると、データサイエンスが厳密にどのようなものによって構成されるか、まだコンセンサスはないが、データベースマネジメント、統計と機械学習、分散処理・並列処理システムの3分野がデータサイエンスの基礎であると指摘し、今後のイノベーションに貢献していくために、これらの分野を中心に関係者の連携・協力が必要であるとしている。また、イギリスの王立統計協会では、2017年にデータサイエンスのセクションが新設されている。

明治の日本における「統計」の導入の過程において、統計学が「人間社会を観察する科学」と限定されず、幅広い分野に適用される学問としてとらえられたことは、統計学の発展に役立ってきたと思われる。この議論が現代の「データサイエンス」にそのまま適用できるわけではないが、新しい学問分野の開拓が進んでいる時期には、既存の学問分野では範囲を拡張して新しいものをも包含するよう努めるとともに、その新分野に特化した研究者とも積極的に連携・協力することが必要と思われる。2017年、2018年に2大学において新設の「データサイエンス学部」においては、いずれも本学会の会長経験者を始め会員が中心となって率いていかれるので、「統計学」と「データサイエンス」の間には良好な連携が図られるものと思われる。今後、伝統ある「統計学」と新しい「データサイエンス」が相互に刺激を与えながら発展してほしいと思う。

2. 2018年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

運営委員長 笛田 薫（滋賀大学）
実行委員長 鎌倉 稔成（中央大学）
プログラム委員長 汪 金芳（千葉大学）

2.1 2018年度統計関連学会連合大会について

2018年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の共催により、2018年9月9日（日）から13日（木）まで開催いたします。会場は中央大学後楽園キャンパス

(<http://www.chuo-u.ac.jp/access/kourakuen/>)

で、初日の9月9日はチュートリアルセッションおよび市民講演会を、9月10日から13日までは、本大会として一般講演や企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなどの開催を予定しています。講演数が増えたことから、今年度は本大会の日程を4日といたします。

2.2 一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込、報告集原稿提出は

今後開設するホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬（予定）とし、それ以降に、報告集原稿提出および参加の事前申込の締め切りを設定いたします。発表を計画されている方は予定に組み込んでいただければ幸いです。確定した期日や具体的な企画は、3月上旬ごろに発行予定の第二報でお知らせいたします。

2.3 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション（4月上旬に締め切りを設定予定）、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなどを予定しています。何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会（kikaku2018(at)jfssa.jp）までお知らせください（(at)を@に置き換えてください）。各種企画の詳細は、第二報でお知らせいたします。

3. 第12回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

西郷 浩（日本統計学会理事長）
山本 渉・玉置 健一郎・永井 義満（企画・行事委員会）

第12回日本統計学会春季集会を早稲田大学にて開催いたします。会員の皆様による活発な議論を期待しております。プログラムは午前にはプレナリー形式のセッションを一つ、午後には4つの企画セッションを2つずつ並行する予定です。これまでのところ、次の3つの企画セッションが確定しています。

「統計教育の新しい展開」（オーガナイザー：美添添人、青山学院大学）では、美添添人先生

（青山学院大学）より拡大版 JINSE の現状、竹村彰通先生（滋賀大学）より滋賀大学における統計教育の展望、岩崎学（横浜市立大学）より横浜市立大学における統計教育の計画、宿久洋・原尚幸・玉谷充（同志社大学）より同志社大学文化情報学部における統計検定の活用、鎌倉稔成先生（中央大学）より ICOTS10 と JINSE について、それぞれご講演を頂きます。

「公的統計・改革の時代へ」（オーガナイザー：

椿広計、(独)統計センター)では、美添泰人先生(青山学院大学)より公的統計改革の現状と展望、谷道正太郎先生(統計センター)より公的統計データの利活用、高部勲先生(総務省統計局)よりビッグデータの公的統計への利活用、についてのご講演を頂き、総合討論も行われます。

「チュートリアル：機械学習—深層学習とスパース推定を中心に—」(オーガナイザー：西郷浩，早稲田大学)では、鈴木大慈先生(東京大学)より機械学習のチュートリアル講演を、川野秀一先生(電気通信大学)よりスパース推定のチュートリアル講演を頂きます。

残りのセッションも決まり次第、春季集会のWebサイトでアナウンスさせていただきます。

また今回もポスターセッションの発表を広く募集しております。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、懇親会を計画しており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

日時：2018年3月4日(日)9時30分～17時30分+懇親会

会場：早稲田大学早稲田キャンパス3号館

参加費：無料(ただし事前に参加登録が必要です。懇親会は有料で、参加費5000円を当日に申し受けます。なお学生の懇親会参加費は1000円で

す。)

懇親会：2018年3月4日(日)18時～20時

懇親会会場：早稲田大学早稲田キャンパス25号館
大隈ガーデンハウス

春季集会は毎年、事前に参加登録をお願いしています。参加登録の方法につきましては、このお知らせの最後をご覧ください。

○講演者、講演タイトル等のプログラムの詳細情報は、春季集会Webサイト<http://www.jss.gr.jp/convention/spring12/>をご覧ください。

○事前参加登録、懇親会の申込み

本集会は、会場の都合上、事前の参加登録にご協力ください。春季集会Webサイト内の参加申込ページより、2月22日(木)までにお申し込みください。懇親会の参加も、同ページよりお申し込みください。

○ポスターセッションの申込み

春季集会Webサイト内のポスターセッション申込ページより、2月14日(水)までにお申し込みください(厳守)。ポスターセッションに関する詳細も、同ページをご覧ください。

○会場についての事前のご案内

春季集会の当日は同じ建物(早稲田大学3号館)で他学会(早稲田政治経済学会)も開催されます。春季集会の会場は、3号館の7階・8階となります。受付も7階または8階となる予定です。ご注意ください。

4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

西郷 浩(日本統計学会理事長)

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第23回 日本統計学会賞

第14回 日本統計学会統計活動賞

第14回 日本統計学会統計教育賞

第12回 日本統計学会研究業績賞

第11回 日本統計学会出版賞

いずれも推薦期間は2017年12月11日(月)から2018年3月30日(金)と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ

(<http://www.jss.gr.jp/society/prize/>)からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵

送をお願いします。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

[宛先・照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL & FAX : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

○各賞共通

[受賞対象]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

[推薦方法]

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

[選考方法]

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

[発表]

各選考委員会は選考結果を日本統計学会社員総会及び会員大会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

○各賞の概要

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった

者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[推薦・選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し社員総会が承認した者若干名。

・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

(1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化(統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等)。

(2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献(ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等)。

- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

受賞対象は、毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し社員総会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

受賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

受賞対象者は、毎年2名以内とする。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し社員総会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

受賞の対象は、次に掲げるいずれかの要件を満たす研究活動の成果とする。

- (1) 各年の日本統計学会誌掲載論文であって、若手の統計学研究者の奨励を趣旨とした「日本統計学会小川研究奨励賞」の対象とはならない論文。
- (2) 日本統計学会に所属する会員が、過去3年程度に内外の統計学関連の学術誌上で出版した複数あるいは単独の論文。
- (3) 統計学に関する図書、ならびに統計学関連の研究成果を著した図書。

受賞対象は、毎年2件程度とする。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し社員総会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書（研究、教育あるいは啓蒙）を出版した著者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に掲げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する研究、教育あ

るいは啓蒙上の図書。

(2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

授賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集

担当理事2名，及び会長が推薦し社員総会が承認した者若干名。

・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する。

5. 第67回全国統計大会の報告

赤平 昌文（日本統計学会会長）

総務省等の主催の上記大会が11月13日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。同大会の目的は国，地方公共団体，関係団体等の統計関係者が一堂に会して相互の交流と研鑽を行い，我国の統計及び統計制度の進歩発展と普及啓発に資することです。今大会では野田聖子総務大臣の主催者挨拶から始まりました。その後，第2回地方公共団体における統計利活用表彰では静岡県が総務大臣賞を授与され，「統計調査功績者」の総務，厚生労働，農林水産，経済産業，国土交通の各省大臣表彰が行われました。特筆すべきは女性の受賞者が大変多いということです。

次に，第65回統計グラフ全国コンクールは統計知識の普及と統計の表現技術の研鑽を図るため，全国の小学生，中学生，高校生等を対象に統計グラフの募集が行われ全国から26,447作品の応募がありました。第1次審査及び第2次審査を経た168作品について最終審査で特選6作品が決定され，特に優れた作品に対して総務大臣賞，文部科学大臣賞，日本統計学会会長賞が授与され，問題解決に関する特に優れた作品に対して日本品質管理学会賞が授与されました。日本統計学会会長受賞作品は大分県立国東高等学校1年の上岡美月さんと一般の上岡史子さん親子の「子供の貧困と支援の輪」でした。渡辺美智子審査委員長からは，高校生の美月さんとお母さんの2人の共同で目をそむけてはならない日本における子どもの貧困の問題の重要度を多くの統計資料で伝えた作品で，



食べ物や栄養状態に絞り込んだことで対策のヒントも見出しているという講評がありました。会場には受賞作品を含む多くの作品が展示されていましたが，いずれも完成度が高く力作揃いで大変感心しました。若い作成者の皆さんの今後の活躍が大いに期待されます。

その後，戦後の統計再建に尽力した故大内兵衛博士の業績を記念して昭和28年度に制定された大内賞の授与が行われ，多年統計実務に従事して我国の統計の進歩に貢献した4名の女性の統計調査員の方々に授与されました。いずれも約40年以上にわたり統計調査に尽力されていて日頃の地道な活動が我国の統計を支えていることが評価されたものです。また，今年度の統計の日（10月18日）標語入選者表彰があり，作品「統計が教えてくれる地域力」が特選でした。最後に，受賞者による実績紹介の統計・データサイエンス活用セミナーが開催されました。

今大会への参加を機に、我国の統計を支える多

くの方々の労苦に改めて感謝する次第です。

6. 内閣府経済社会総合研究所「経済分析」への投稿論文の募集

西郷 浩（日本統計学会理事長）

内閣府経済社会総合研究所から、同研究所の発行する「経済分析」への投稿論文の募集が学会あてに届きました。「経済分析」は、同研究所内外の研究者が日本語論文を投稿できる査読付き学術誌です。とくに、GDP統計や景気動向指数、景気循環に関連した分析・研究の投稿が歓迎されま

す。このたび、同研究所外の研究者に積極的に投稿を呼びかけることとなり、ここにご案内いたします。とくに、2018年には、いくつかのテーマについて特集が組まれる予定です。詳しくは、以下の website をご参照ください。

<http://www.esri.go.jp/jp/archive/bun/bun.html>

7. 科学技術教育フォーラムのお知らせ

竹内 光悦（実践女子大学）

第7回 科学技術教育フォーラム

科学技術立国を支える問題解決教育

～次期学習指導要領の目指す人と社会～

開催責任者：鈴木和幸（電気通信大学）

日時：2018年3月24日（土）13：00～17：45

場所：電気通信大学100周年記念ホール

定員：90名（初等中等教育関係者を優先致します）

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.yokogawa.iperc.uec.ac.jp/information2.html>

8. 統計教育の方法論ワークショップのお知らせ

竹内 光悦（実践女子大学）

第14回統計教育の方法論ワークショップ

次期学習指導要領における統計教育の体系的学びと高等教育での展開

～社会に開かれた教育課程を意識した主体的・対話的で深い学びへの展望～

実行委員長：田村義保（統計数理研究所）

事務局担当：竹内光悦（実践女子大学）

日程：2018年3月2日（金）・3日（土）

場所：情報・システム研究機構統計数理研究所（東京都立川市緑町10-3）

最新の情報は下記をご覧ください。

<http://estat.sci.kagoshima-u.ac.jp/SESJSS/edu2017.html>

9. 理事会・委員会報告 (2017年12月9日開催)

理事会

日時：2017年12月9日(土曜日) 午後0時00分～午後1時20分

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階 応用数学科ゼミ室

理事の総数 13名 出席理事の数 10名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：赤平昌文会長，西郷浩理事長，中野慎也(庶務)，村上秀俊(庶務)，青嶋誠(会誌編集欧文)，佐井至道(会誌編集和文)，山本涉(大会・企画・行事)，大森裕浩(国際)，松田安昌(渉外)，稲葉由之(渉外)(以上10名，カッコ内は役割分担)

監事：岩崎学，中西寛子，中野純司

委員：荒木万寿夫(大会)

オブザーバーの承認

荒木万寿夫大会委員がオブザーバーとして出席することが承認された。

第1議案 臨時委員会における委員の交代について

西郷理事長より，資料に基づき，各臨時委員会委員の再任，交代について説明がなされ，承認された。

・質保証委員会(任期2018.1.1～2018.12.31・全員再任)：

竹村彰通(委員長)，岩崎学(副委員長)，伊藤彰彦，今泉忠，田栗正章，田村義保，舟岡史雄，山本拓，渡辺美智子

・基準委員会(任期2018.1.1～2018.12.31・全員再任)：

田栗正章(委員長)，今泉忠，岩崎学，岡太彬訓，折笠秀樹，竹村彰通，田村義保，椿広計，西村圭一，林篤裕，藤井良宜，水田正弘，山口和範，美添泰人，渡辺美智子

・出版企画委員会(任期2018.1.1～2018.12.31・全員再任)：

鎌倉稔成(委員長)，岩崎学，国友直人，西郷浩，竹村彰通，田中豊，矢島美寛，酒折文武，中野純司

・産学連携推進委員会(任期2018.1.1～2018.12.31・全員再任)：

椿広計(委員長)，大野忠士，鎌倉稔成，鈴木督久，中野純司，西井龍映，舟岡史雄，安川武彦

・JSS-Springer編集委員会(任期なし・2018.1.1矢島美寛委員から赤平昌文委員に交代)：

国友直人(委員長)，竹村彰通(副委員長)，赤平昌文，岩崎学，大森裕浩，狩野裕，北川源四郎，濱崎俊光，

樋口知之，松井茂之

・MOOC委員会(任期2018.1.1～2018.12.31・全員再任)：

佐藤整尚(委員長)，酒折文武，下川敏雄，竹村彰通，中山厚穂，松田安昌，渡辺美智子

第2議案 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

西郷理事長より，資料に基づき，学会賞各賞の候補者推薦を開始し，会報およびホームページで周知する旨が報告され，審議の上，承認された。尚，推薦受付期間は2017年12月11日より2018年3月30日までとし，会長が推薦する選考委員は次回社員総会において承認を得ることとする。

第3議案 日本統計学会誌投稿規程の変更について

西郷理事長より，資料に基づき，日本統計学会英文誌のJSSDへの移行に伴う投稿規程の変更について提案があり，審議の上，承認された。

第4議案 ウェブページ上の日本統計学会誌投稿要領の変更について

西郷理事長より，資料に基づき，ウェブページ上の日本統計学会誌投稿規定の変更について提案があった。佐井理事より，「規定」へのリンクは消して「投稿要領」に統一した方がよいのではないかという意見があった。また，岩崎監事より，和文誌しか出していないとの印象を与えるのは好ましくないため，JSSDについてもウェブページ上で触れた方がよいとの意見があった。審議の結果，これらの意見も含めてウェブページを修正することが承認された。

第5議案 日本統計学会各賞の英文名について

西郷理事長より，資料に基づき，日本統計学会各賞の英文名を公式化するため，日本統計学会各賞の規程に英名を明記することが提案された。審議の結果，原案を修正し，以下の英名を記載することが承認された。

日本統計学会賞：JSS Award

日本統計学会統計活動賞：JSS Achievement Award

日本統計学会統計教育賞：JSS Education Award

日本統計学会研究業績賞：JSS Research Award

日本統計学会出版賞：JSS Publication Award

小川研究奨励賞：JSS Ogawa Award

また，英文Flyerではprizeになっているので，規程に記載される名前に統一することになった。

第6議案 日本統計学会和文誌の海外販売価格について

村上理事より，日本統計学会和文誌の海外販売価格

を\$35 (U.S) とし、社員総会で承認を得た後、4月以降に販売することにしたとの提案があり、承認された。

第7議案 ISI 東京大会記念基金運営委員会規則の変更について

西郷理事長より、資料に基づき、ISI 東京大会記念基金運営委員会規則の変更の提案があり、審議の上、改訂日を修正の上で提案が承認された。

第8議案 社員総会召集の件

赤平会長より、会長は社員総会を以下のとおり召集する旨が説明され、承認された。

1. 日時 2018年3月3日(土曜日)午後6時00分から
2. 場所 統計数理研究所2階会議室1 (D222)
3. 会議の目的事項

(1) 社員総会における通常の審議

第9議案 会員の入退会

西郷理事長より、回覧資料に基づき入退会者が紹介され、審議の結果、承認された。

委員会

日時：2017年12月9日(土曜日) 午後1時20分～午後3時

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス1号館14階 応用数学科ゼミ室

出席：理事10名、監事3名、委員1名、計14名

赤平昌文会長、西郷浩理事長、中野慎也、村上秀俊、青嶋誠、佐井至道、山本渉、大森裕浩、松田安昌、稲葉由之、岩崎学(監事)、中西寛子(監事)、中野純司(監事)、荒木万寿夫(大会)

<報告事項>

1. 欧文誌編集委員会

青嶋委員長より、資料に基づき、間もなく出版予定の欧文誌 JJSS の最終号の状況について報告された。また、新ジャーナル JJSD についても報告があった。

2. 和文誌編集委員会

①編集状況について

佐井委員長より、和文誌47巻2号の編集状況の報告と、48巻1号について5～6本の特集を予定している旨の報告があった。

②J-Stage のウェブページ変更について

佐井委員長より、J-Stage ウェブページが11月に機能追加されたとの報告があった。

3. 大会委員会

山本委員長より、連合大会の報告が Web に掲載されたこと、次号の会報で2018年の連合大会についてアナウンスされることが報告された。

4. 企画・行事委員会

山本委員長より、資料に基づき、第12回春季集会の準備状況について報告がなされた。

5. 庶務委員会

①日本統計学会の名簿(ウェブ名簿・冊子名簿)について

村上委員長より、12月15日に名簿が更新された旨の報告があった。

②Web の投稿規定・投稿要領について

村上委員長より、欧文誌の移行に伴い、ウェブページに掲載されている論文誌の投稿規定・投稿要領が変更されたことが報告された。

6. 広報委員会

村上庶務委員長が広報委員会の報告を代読し、10月末に会報173号が刊行されウェブページにも掲載されたこと、会報の次号の原稿を募集中で締切は1月7日であること、次号の巻頭言は川崎茂先生に依頼したことが報告された。

7. 国際関係委員会

大森理事より、資料に基づき、連合大会で開催した計算機統計学会との共催による国際セッション、International Conference on Econometrics and Statistics 2018への協賛、CSA-KSS-JSS International Statistical Symposium への参加者派遣、2018 CIPS Annual Meeting への参加者派遣のそれぞれの件について報告がされた。

8. 渉外委員会

①統計検定について

稲葉委員長より、資料に基づき、2017年6月に行われた統計検定についての報告がなされた。

②科研費「国際情報発信強化」への申請について

松田委員より、科研費研究成果公開促進費に応募した旨が報告された。

9. その他

赤平会長より、2019年6月のイタリア統計学会に会長を招聘したい旨の打診があったとの報告があり、松田理事と国際関係委員会で対応を検討することになった。また、赤平会長より、2017年12月2日に開催された第8回横幹連合コンファレンスの会長懇談会において、ORCID や第5期科学技術基本計画などが話題になったとの報告があった。

<審議事項>

1. 欧文誌編集委員会

審議事項なし

2. 和文誌編集委員会

佐井委員長より、和文誌論文の別刷代が会員は無料、非会員は有料になっているが、非会員に投稿を依頼しやすくするために非会員も無料にできないかとの提

案があり、会計と相談して検討することになった。

3. 大会委員会

審議事項なし。

4. 企画・行事委員会

山本委員長より、資料に基づき、春季集会の特別セッション、企画セッションについての相談があった。

5. 庶務委員会

①退会届について

村上委員長より、資料に基づいて、退会届様式の変更について提案があり、承認された。

②学会賞受賞者（非会員）の旅費について

村上委員長より、非会員の学会賞受賞者への旅費補助が提案され、必要であれば、会長、理事長、会計理事と協議の上で補助する方針で進めることが承認された。

6. 広報委員会

西郷理事長より、内閣府経済社会総合研究所「経済

分析」誌の投稿募集の宣伝を会報等で行う旨が提案され、承認された。

7. 国際関係委員会

審議事項なし。

8. 渉外委員会

審議事項なし。

9. その他

・赤池メモリアルレクチャー賞について

西郷理事長より、JJSS から JJSD への移行に伴う、赤池メモリアルレクチャー賞への日本統計学会の対応について問題提起がなされた。審議の結果、これまで受賞者の招待論文が AISM もしくは JJSS に掲載されることになっていたが JJSS を選択肢から外すことになった。従来、審査に参加していた欧文誌編集委員も規程上は審査員から外すことになった。

10. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

●高橋将宜・渡辺美智子著『欠測データ処理：Rによる単一代入法と多重代入法』共立出版、2017年12月、2,200円＋税

内容紹介：t検定、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、時系列分析、パネルデータ分析などの手法に関して、データが欠測している場合に、多重代入法によってどのように処理して分析するかを具体的に解説しています。

11. 受賞紹介

会員からの投稿による各種受賞の紹介記事を掲載します。

●106年吳大猷先生紀念獎（統計学領域）

受賞者：江村剛志（国立中央大學・統計研究所（台湾））

賞の内容紹介：台湾の科技部（Ministry of Science

and Technology, Taiwan）が若手国内研究者に与える学術研究奨励。受賞資格は42歳以下、職位は准教授以下であること。2017年度は学問の全領域から44名、うち統計学領域で1名に与えられた。賞金は30万ニュー台湾ドル。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2017年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学

会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、

こちらもご活用下さい。また、2017年度6月からクレジットカードでの学会費払込も可能となりました。お申込みは学会ホームページ（<http://www.jss.gr.jp/fce/>）よりお願いいたします。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

岩崎 正和 会員
上田 尚一 会員
長坂 建二 会員
山田 茂 会員

入会承認

池田有希, 板谷智也, 乾孝治, 江原斐夫, 岡本基, 佐藤倫治, 鈴木佑輔, 瀬下大輔, 高崎滋之, 中橋良信, 稗田尚弥, 南賢太郎, 安田憲治, 山口尚哉, 山田泰行 (敬称略)

退会承認

阿部誠, 内山仁, 大林千一, 岡本雅典, 小田剛士, 片岡淳, 金川元信, 栗木進二, 小池淳夫, 坂西明子, 清水昌平, 竹田恒, 仲真弓, 中野あい, 中村忠利, 馬渡和宏, (株)うえじま企画 (敬称略)

現在の会員数 (2018年1月17日)

名誉会員	16名
正会員	1,399名
学生会員	66名
総計	1,481名
賛助会員	19法人
団体会員	7団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)
- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。
- 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)
できるだけe-mailによる投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

中央大学経済学部

伊藤 伸介 宛

E-mail：koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL：
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp